

[引受保険会社]

変額保険 グローバルミックス



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

四半期運用レポート

2013年10月～2013年12月

[利用する投資信託の委託会社]

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社



redefining / investment solutions

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 ALM & 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
債券 50%		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険

特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2013年10月～2013年12月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX(東証株価指数)が前期末比+9.06%上昇の1,302.29ポイントで終了しました。

10月は、米国の財政問題への懸念などから下落しましたが、その後、米国の与野党が財政問題への対応で合意に達したことなどから上昇基調で推移しました。11月は、2013年7-9月期のGDP(国内総生産)速報値が予想を上回ったことなどを背景に上昇しました。12月は、米国株式市場の下落などを受けて下落基調で推移した後、米国の量的緩和縮小開始の決定などを背景に上昇しました。

業種別(東証33業種)では、消費増税前の住宅設備関連への駆け込み需要による業績上振れ期待から、「金属製品」(前期末比+21.23%)が最も上昇した一方、為替の円安進展から、「空運業」(同 7.95%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、10月、財政問題への懸念などから下落しましたが、その後、与野党が財政問題への対応で合意に達したことなどから上昇しました。11月は、市場予想を上回る経済指標や、緩和的な金融政策が長期化するとの見方などから上昇基調で推移しました。12月は、量的緩和縮小観測の高まりなどから下落した後、FOMC(米連邦公開市場委員会)で、インフレの動向次第で現行の超低金利政策を相当な期間継続するの適切との見解が示されたことなどから上昇し、NYダウは、前期末比+9.56%上昇の16,576.66ドルで終了しました。

欧州株式市場は、10月、米国の財政問題への懸念などから下落しましたが、その後、米国の与野党が財政問題への対応で合意に達したことなどから上昇しました。11月は、英国・フランス株式市場が下落する一方、連立政権樹立の合意などにより、ドイツ株式市場は上昇しました。12月は、米国の量的緩和縮小観測の高まりなどから下落した後、FOMCで低金利政策を継続する方針が示されたことなどにより上昇しました。市場別騰落率は、英FT100は前期末比+4.44%上昇、仏CAC40は同+3.68%上昇、独DAXは同+11.14%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10月、米国の量的緩和政策の長期化観測などを背景に、金利は低下(価格は上昇)しました。11月は、国債需給の逼迫感が強いものの、米国の金利上昇などを背景に、金利は上昇(価格は下落)しました。12月は、月内の大量償還から国債需給の逼迫が改めて意識されたことなどにより、低下する局面もありましたが、国内株式市場の上昇などを受けて上昇し、新発10年国債利回りは0.735%となりました(前期末は0.680%)。

日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10月、米国債の債務不履行懸念が台頭したことなどから金利は上昇(価格は下落)しましたが、その後、与野党が財政問題の対応で合意に達したことなどから低下(価格は上昇)基調で推移しました。11月は、10月のFOMC議事要旨から量的緩和縮小が早まるとの見方が強まったことなどから、上昇基調で推移しました。12月は、量的緩和の縮小開始が決定されたことなどから上昇し、米10年国債利回りは3.028%となりました(前期末は2.610%)。

欧州債券市場は、10月、米国の財政問題への懸念が緩和されるにつれてリスク選好が高まったことなどから、金利は上昇(価格は下落)しましたが、その後、米国の量的緩和と政策の長期化観測などから低下(価格は上昇)しました。11月は、堅調な米雇用統計などを受けて上昇する一方、ECB(欧州中央銀行)の追加金融緩和観測の高まりなどから低下し、揉み合いで推移しました。12月は、米国の量的緩和縮小開始決定などから上昇し、独10年国債利回りは1.929%となりました(前期末は1.779%)。

FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0～0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を0.25%引き下げ、年0.25%としました。

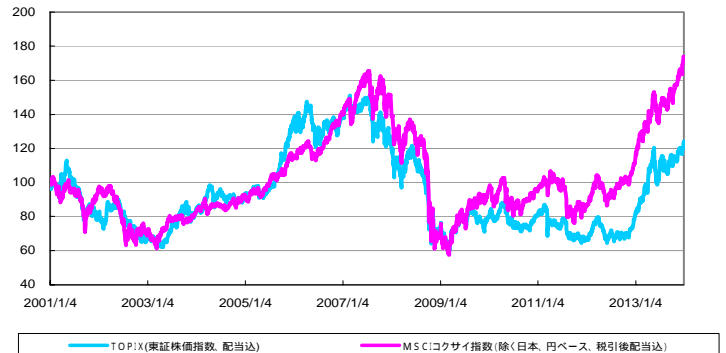
【外国為替市場】

米ドル/円相場は、10月、米国の財政問題への懸念などから円高となる一方、FOMC後の声明で、景気が緩やかな拡大を続けているとの認識が示されたことなどにより円安となるなど、揉み合いで推移しました。11月は、堅調な米雇用統計や米国の量的緩和縮小観測などを背景に、円安が進行しました。12月は、米国の財政協議の進展や米国で量的緩和の縮小開始が決定されたことなどを受けて円安基調で推移し、円は対ドルで前期末比7円64銭(7.82%)円安ドル高の1ドル=105円39銭となりました。

ユーロ/円相場は、10月、米国の財政問題などを巡って円高となった後、米国の財政問題対応が合意に達したことや米国の量的緩和政策長期化の見方などからユーロが上昇し、円安となりました。11月は、ECBが政策金利を引き下げたことなどから一時的に円高となった後、ドイツ株式市場が上昇するにつれてユーロも上昇し、円安の動きとなりました。12月は、欧州の銀行の対外資産圧縮を目的としたユーロ買い観測などからユーロがさらに上昇し、円は対ユーロで前期末比13円18銭(9.99%)円安ユーロ高の1ユーロ=145円05銭となりました。

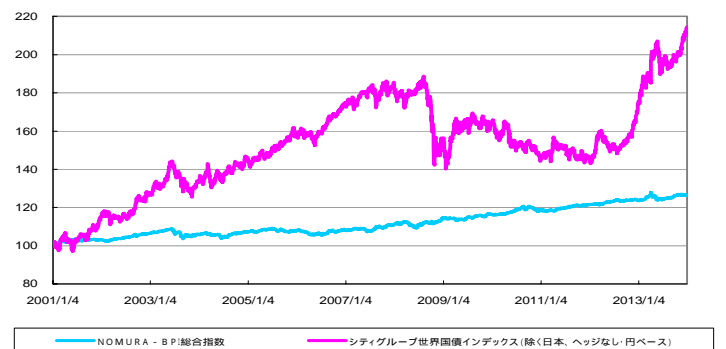
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

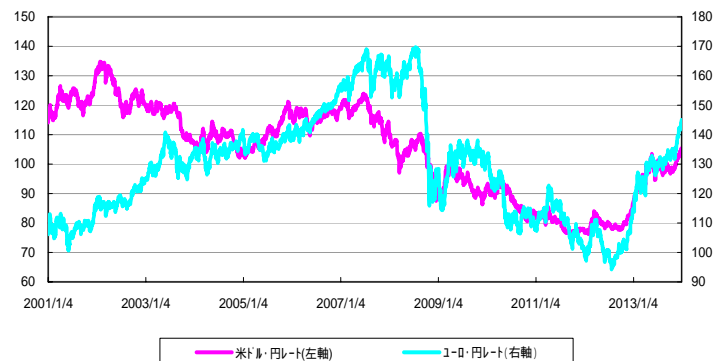


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

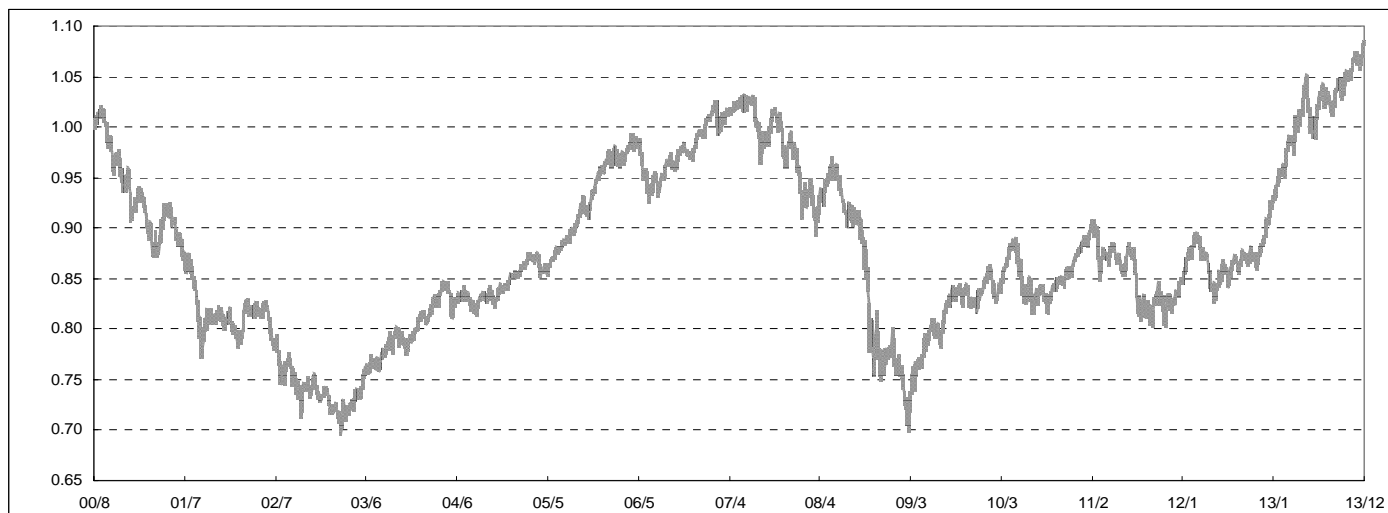
特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2013年12月 末日現在]

特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2013年12月末	2013年11月末	2013年10月末	2013年9月末	2013年8月末	2013年7月末
INDEX	1.085	1.073	1.052	1.040	1.011	1.022
騰落率 (%)	過去1ヵ月: 1.09	過去3ヵ月: 4.36	過去6ヵ月: 7.60	過去1年: 19.13	過去3年: 23.67	設定来: 8.51

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	1,682,565	4.0
その他有価証券	40,105,333	96.0
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	4,291,381	10.3
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	6,418,015	15.4
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	6,725,076	16.1
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	4,284,321	10.3
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	18,386,538	44.0
合計	41,787,898	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

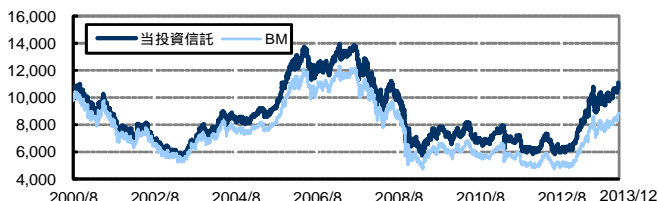
特別勘定の四半期運用レポート（2013年10月～2013年12月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年12月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.59%	9.40%	15.03%	50.18%	50.63%	10.20%
BM	3.47%	9.06%	14.86%	51.46%	44.89%	12.16%
差	0.12%	0.34%	0.17%	1.29%	5.74%	22.36%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報

業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 輸送用機器	12.69%
2 銀行業	11.06%
3 電気機器	10.35%
4 情報・通信業	7.13%
5 小売業	6.69%
6 化学	5.77%
7 卸売業	5.74%
8 医薬品	4.01%
9 その他業種	35.59%
10 現金等	0.98%
合計	100.00%

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	99.02%
2 現金等	0.98%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.84%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.79%
3 ソフトバンク	情報・通信業	2.15%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.93%
5 本田技研工業	輸送用機器	1.91%
6 KDDI	情報・通信業	1.76%
7 日本電信電話	情報・通信業	1.73%
8 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.35%
9 キヤノン	電気機器	1.33%
10 日立製作所	電気機器	1.31%
合計		22.11%
組入銘柄数		253銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+9.40%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+9.06%となりました。当期の日本株式市場では、配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した移動体通信、その他金融を多めに保有していたこと、下落した電力を少なめに保持していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したITハードウェアを少なめに保有していたこと、下落した銀行、卸売を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したKDDI(9433)、日鉄住金物産(9810)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した日産自動車(7201)およびニチイ学館商事(9792)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

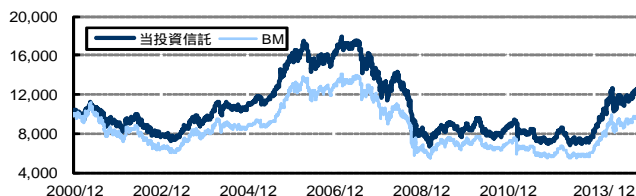
特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年12月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	3.13%	9.73%	14.54%	50.72%	47.76%	27.72%
BM	3.47%	9.06%	14.86%	51.46%	44.89%	1.01%
差	0.33%	0.67%	0.32%	0.74%	2.86%	26.71%

マザーファンド受益証券の詳細情報 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 輸送用機器	10.82%
2 情報・通信業	10.79%
3 電気機器	10.52%
4 銀行業	10.03%
5 化学	8.37%
6 医薬品	5.58%
7 卸売業	5.45%
8 証券・商品先物取引業	5.15%
9 その他業種	32.33%
10 現金等	0.96%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.85%
2 日本電信電話	情報・通信業	3.45%
3 トヨタ自動車	輸送用機器	3.38%
4 キヤノン	電気機器	3.06%
5 KDDI	情報・通信業	2.98%
6 NTTドコモ	情報・通信業	2.75%
7 日立製作所	電気機器	2.67%
8 伊藤忠商事	卸売業	2.54%
9 東海旅客鉄道	陸運業	2.44%
10 大和証券グループ本社	証券・商品先物取引業	2.18%
合計		30.30%
組入銘柄数		115銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+9.73%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+9.06%となりました。当期の日本株式市場では、配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当ファンドではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した飲料・タバコや金属を少なめに保有していたこと、上昇したその他金融を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したITハードウェアを少なめに保有していたこと、下落した空運、輸送を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したサイコーエプソン(6724)およびKDDI(9433)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、上昇したソフトバンク(9984)を少なめに保有していたこと、下落した日産自動車(7201)を多めに保持していたことはマイナスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	98.18%
2 ジャスダック証券取引所	0.52%
3 東京証券取引所第二部	0.33%
4 名古屋証券取引所第一部	0.01%
5 名古屋証券取引所第二部	0.00%
6 現金等	0.96%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

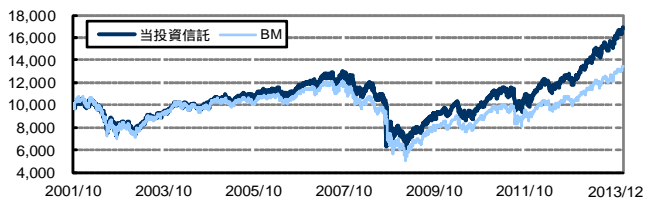
特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年12月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.89%	9.82%	16.30%	36.99%	60.96%	69.38%
BM	1.86%	8.78%	14.03%	29.57%	44.77%	34.90%
差	0.03%	1.04%	2.27%	7.42%	16.20%	34.48%

マザーファンド受益証券の詳細情報 セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 ソフトウェア・サービス	11.65%
2 医薬品・バイオテク・ライフ	9.60%
3 エネルギー	9.04%
4 資本財	8.70%
5 各種金融	8.05%
6 テクノロジー・ハードウェア	5.85%
7 食品・飲料・タバコ	5.49%
8 メディア	4.60%
9 その他業種	36.59%
10 現金等	0.44%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	2.65%
2 GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.30%
3 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.26%
4 PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテク・ライフ	2.00%
5 WELLS FARGO & COMPANY	アメリカ	銀行	1.88%
6 MERCK & CO. INC.	アメリカ	医薬品・バイオテク・ライフ	1.42%
7 ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.41%
8 COMCAST CORP-CL A	アメリカ	メディア	1.41%
9 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.35%
10 GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	1.33%
合計			18.02%
組入銘柄数			218銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+9.82%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比+8.78%となりました。当期の米国株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で下落したREITや電力を少なめに保有していたことや、上昇した防衛関連を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した石油を多めに保有していたこと、上昇した石油販売やコンピューターを少なめに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇した自動車・自動車部品のJohnson Controls Incや半導体・半導体製造装置のMicro n Technology Incを多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落したテクノロジー・ハードウェアおよび機器のCisco Systems Incや自動車・自動車部品のFord Motorを多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用オンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式
マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数²

(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

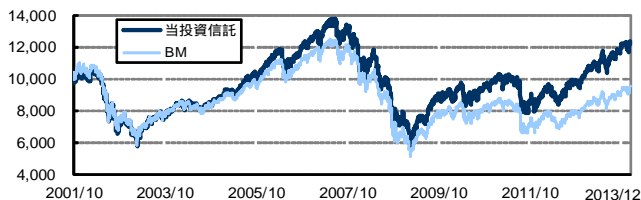
特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年12月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.97%	5.36%	14.54%	21.78%	24.89%	23.63%
BM	0.81%	4.78%	13.06%	16.97%	12.64%	4.99%
差	0.17%	0.58%	1.48%	4.81%	12.25%	28.62%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国別構成比率

国名	マザーファンド
1 イギリス	30.74%
2 ドイツ	15.23%
3 フランス	13.57%
4 スイス	13.51%
5 オランダ	6.32%
6 スウェーデン	4.30%
7 スペイン	4.08%
8 ベルギー	2.73%
9 その他の国	8.86%
10 現金等	0.67%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	3.01%
2 SIEMENS AG	ドイツ	資本財	2.39%
3 NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.39%
4 GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.32%
5 BP PLC	イギリス	エネルギー	2.09%
6 NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.07%
7 DAIMLER AG	ドイツ	自動車・自動車部品	1.83%
8 ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.67%
9 VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.66%
10 ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.48%
合計			20.91%
組入銘柄数			193銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+5.36%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は前四半期末比+4.78%となりました。当期の欧州株式市場は、市場全体に対し比較的堅調であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した保険を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した小売を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇した自動車・自動車部品のVolkswagen Ag(ドイツ)やソフトウェア・サービスのSage Group(イギリス)を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落したテクノロジー・ハードウェアおよび機器のTelefonaktiebolaget Lm Ericsson(スウェーデン)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数³(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.62%
2 銀行	10.60%
3 資本財	9.63%
4 食品・飲料・タバコ	8.26%
5 エネルギー	7.99%
6 電気通信サービス	7.36%
7 保険	6.97%
8 素材	6.03%
9 その他業種	30.87%
10 現金等	0.67%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

変額保険

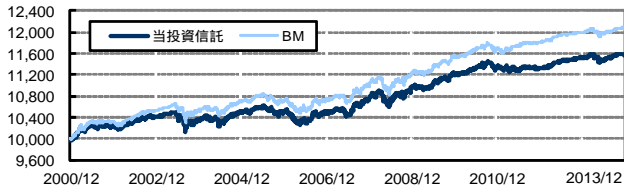
特別勘定の四半期運用レポート (2013年10月～2013年12月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2013年12月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定以来
投資信託	0.28%	0.04%	0.70%	0.50%	1.71%	15.66%
BM	0.22%	0.09%	0.62%	0.58%	2.97%	20.59%
差	0.07%	0.04%	0.08%	0.08%	1.25%	4.93%

利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合⁴、中期3年以上7年未満)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.18年	99.12%
国債	4.86年	74.60%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	1.48年	5.76%
金融債	0.91年	0.94%
社債等	2.36年	17.82%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	0.88%
合計	4.14年	100.00%

* 債券先物を含みます。

公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	88.02%
A	9.08%
BBB	2.90%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

海外格付機関の格付を優先します。
海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.32%
平均クーポン	1.16%
平均残存期間	4.28

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第303回利付国債(10年)	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.51%
2	第300回利付国債(10年)	日本	1.500%	2019年3月20日	Aa3	AA-	5.93%
3	第106回利付国債(5年)	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.82%
4	第305回利付国債(10年)	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.45%
5	第322回利付国債(10年)	日本	0.900%	2022年3月20日	Aa3	AA-	4.31%
6	第101回利付国債(5年)	日本	0.400%	2016年12月20日	Aa3	AA-	3.87%
7	第314回利付国債(2年)	日本	0.100%	2014年3月15日	Aa3	AA-	3.47%
8	第109回利付国債(5年)	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.27%
9	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.97%
10	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.96%
合計							46.54%
組入銘柄数							46銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.04%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は前四半期末比+0.09%となりました。当四半期で最も注目すべきことは、12月に米連邦準備制度理事会が、市場の大方の予想に反して量的金融緩和の縮小開始を決定したことです。これにより、米国の金融政策を巡る不透明感が後退し、リスク・オンの様相が強まり、日本をはじめとする主要先進国の株式市場は上昇した一方で、債券利回りは世界的に上昇しました。アベノミクスと日銀の積極的な金融緩和が功を奏し、日本経済は上向いてきていますが、付随的に円は対ドルで金融危機以降の安値水準まで下落しています。当四半期の新発10年国債利回りは前四半期末比0.055%上昇の0.735%となりました。当四半期の当投資信託はイールドカーブ戦略において平坦化を見込む戦略を維持していましたが、イールドカーブの傾きが急になる形で利回りが上昇したことから、ベンチマークを下回りました。委託会社は、日銀による追加緩和観測を背景に、日本国債市場はレンジ内取引が当面続くと予想しています。今後の当投資信託の方針としては、イールドカーブ戦略では平坦化を見込む戦略を維持し、デュレーション戦略はベンチマークをやや下回る水準とする予定です。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>

用語説明

- *1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。
東証は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- *2 「S & P 500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S & P 500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- *4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

変額保険のリスクについて

市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-568-093

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>